

# でんちゅうさん みつけたよ

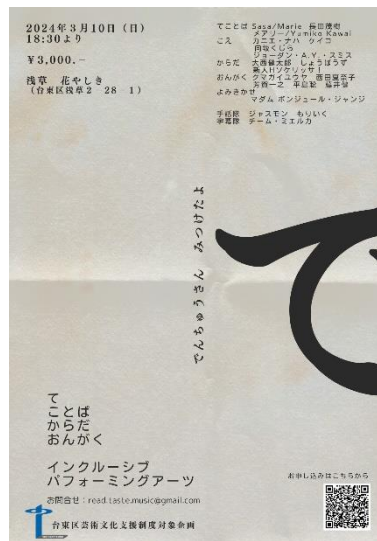
主催 萩原 昌子(Sasa/Marie)  
日程 令和6年3月10日(日)  
会場 浅草 花やしき(浅草2-28-1)

この企画は、夜の花やしきを会場に、手話やダンス、文字などの主に視覚的言語を用いた「詩」のインスタレーションパフォーマンスを行うものです。

各アーティストが、サイレントな手話のことば、声の響き、ダンス、音楽、読み聞かせなど、それぞれの表現をすることで、遊園地全体を立体的な詩の空間へと作り上げていきました。

## 概要

会期 令和6年3月10日(日)  
会場 浅草 花やしき



## 開催の様子

### 【オープニング】

閉園後の花やしきに入園すると、出演アーティストが遊園地の住人に扮し園内を彷徨っていました。

観客は入園時にパンフレットと共に、「〇〇〇になって」「〇〇〇に乗って」「遠くの〇〇〇」など、ランダムに書かれた“ことば拾い”の紙を渡され、自由に夜の遊園地の中を散歩しながら、思い思いの“ことば”を探していきます。



### 【遊園地の中の日常】

本編が始まると、観客が一箇所に集められ、本企画のために制作されたオリジナル曲「夜の遊園地」の歌が生演奏、生声、生手話で上演されました。その後、アーティストがそれぞれのスタイルで、遊園地の中の日常を表現したパフォーマンスを園内各所で行っていました。



アーティストがメインステージに集まると、花やしきの歴史や平櫛田中の紹介をする読み聞かせ、オリジナル曲の演奏が行われました。



### 【ことば拾いから生まれる即興作品】

終盤には、観客が拾ってきたことばたちを、でんちゅう組の詩人4人がその場で組み合わせ、一つの即興詩を仕上げました。その場で読み上げ、手話に翻訳し、上演。詩作品が生まれるプロセスそのものを観客と共有し、夜の遊園地という瞬間だからこそ出来る、観客との共作が完成しました。

会場では、主に手話がメイン言語として上演され、各所に手話通訳を配置するほか、UD トークによる文字支援も行われました。



### 【感想等】

- ・非日常な空間で、不思議なパフォーマンスを見てわくわくドキドキでした。
- ・このままどこか知らない世界に連れていかれてしまうのではないかと思ったりして面白かった。
- ・3/10、東京大空襲のあった日に、浅草であのような時間を共有できて感慨深いものがありました。
- ・手話は分からないが、声の誘導だけでなく、手の合図などで誘導してくださるのは、パフォーマンスの一環として一緒に味わうことができました。
- ・夜の花やしきの雰囲気と相まって不思議な夢のようでした。

撮影：でんちゅう組